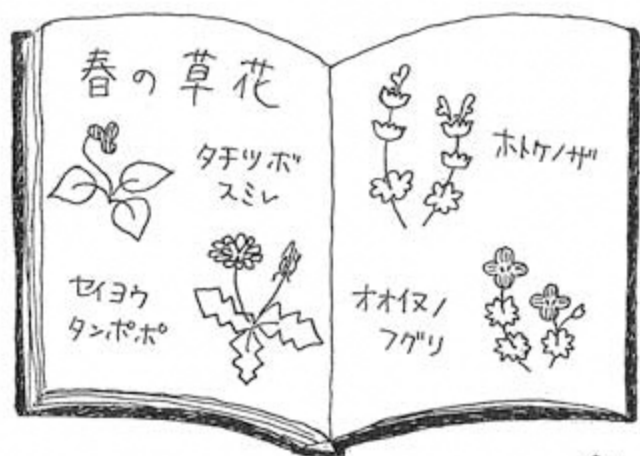




VOL.98

2022.3

111



111

‘キャッチ’

CATCH

西東京市図書館

本から伝わる温度

温かい、ぽかぽか、冷たい、クール…温度を表す言葉は色々ありますね。今回のテーマは、温度です。優しい「ぬくもり」を感じる物語や、背筋が「凍る」ようなホラーもあります。

本を読んで伝わってくる温度を感じてみてください。

おうふうどう

『桜風堂ものがたり』



村山早紀 著 PHP 研究所

私がこの小説から感じた温度は穏やかなあたたかさでした。

この小説の主人公で書店員の青年、^{つきはらいっせい}月原一整は人付き合いを避けがちですが、本を売ること一心に取り組んでいて、その才能は周りにも認められるものでした。しかし、一整が働く書店で起こったある事件がきっかけで彼は書店員をやめざるを得なくなります。そんなとき、桜風堂という書店を営む店主との縁があってその書店を預かることとなり、それからさまざまな出来事が起こっていきます。

この物語のあたたかさを感じるところは人とのつながりとそれが起こす奇跡です。主人公が書店を辞めてしまう前、売り出したいと考えていた本がありました。その思いは元同僚たちにも伝わり、彼が辞めたあとも意思を受け継いでその本を売り出すために動いていきます。その動きはどんどん広がっていき、さまざまな人が主人公の見いだした本に心を打たれ、本を届けることに協力していったのでした。始めは主人公一人が取り組んでいたことも、人と人とのつながりで大きな流れになっていく様子はまるで奇跡のようで、とてもあたたかく感じます。

また、作中では、書店員の仕事の様子も丁寧に描かれています。本をどこにどう並べるか、どの本にどんなPOPを置いて、どんな風にディスプレイするか、それらを司るのは書店員なのです。主人公の仕事についての語りを読んでいくと、何気なく見ている書店の棚がどんな思いで作られているのかを垣間見られます。本を読むことや書店に行くのが好きな人には特に楽しめる物語だと思います。

最後にこの小説の帯にある言葉を紹介したいと思います。「涙は流れるかもしれない。けれど悲しい涙ではありません」この言葉の通り、あたたかい涙が流れて心が晴れやかになるような本です。ぜひ読んでみてください。

『^{うば}奪われたクリムト

ーマリアが『黄金のアデーレ』を取り戻すまでー』

エリザベート・ザントマン 著

永井潤子 訳 浜田和子 訳 梨の木舎

受験生の私は、ちょっと息抜きに祖母の家を訪れることがあります。

祖母は美大を出ていて、祖母の家には様々な絵画や美術に関する本がたくさんあるのです。その中でも私の目を引いたのがクリムトの作品です。そのクリムトに関する書籍を探していた中、出会ったのが表題の『奪われたクリムト』でした。

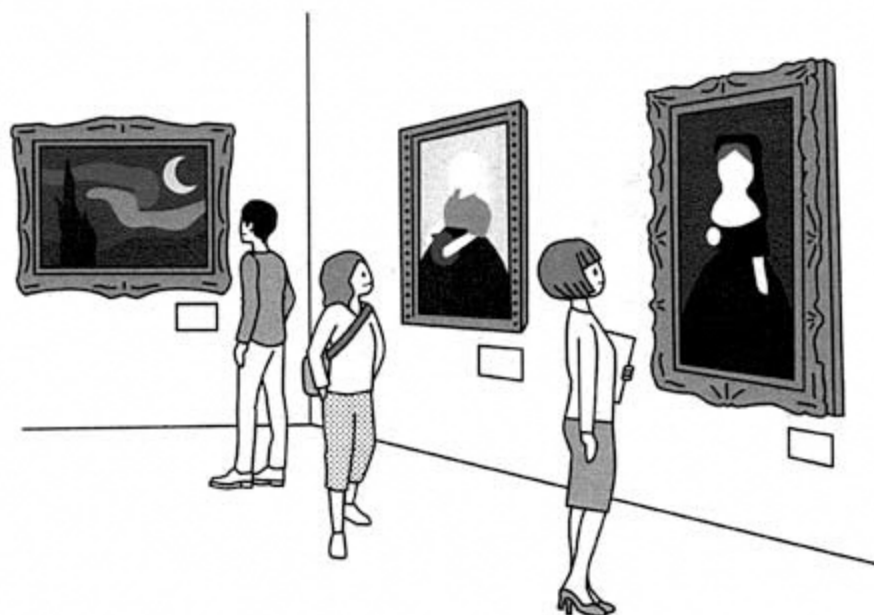
このお話は、実話に基づいて書かれた作品で、第二次世界大戦下ナチスドイツに奪われたクリムトによって描かれた叔母の肖像画を、主人公マリアが取り返すという内容です。

私たちは、戦争を知りません。そのあまりのひどい描写に途中読むのをやめてしまおうかと思うくらい背筋が凍りソッする場面がありました。しかし、

過去から目を背けていては前に進めません。美しい肖像画は私の目にも焼きつくほどです。主人公であるマリアが社会の規範・法律の壁にめげずに挑むところはドキドキで熱くなり、最後は正義を確信できる本当に心が温くなる作品です。

本や図書館というと小説や文学作品を連想しがちですが、コロナ禍で海外の美術館に足を運べない今、様々な芸術作品を本で満喫できることは本当に癒しの時間です。美しい芸術作品・絵画の本は1冊1冊がとても高価で手が届かないけれど、図書館ではたくさん触れることができます。

人間が歩んできた喜び・悲しみなどの感情を芸術作品から知ることでの大切さを実感することができると思います。もう一点、この作品の肖像画のモデル、アデーレの美しさに感銘を受け美顔に励むことにしました。本から学ぶことは本当にたくさんあります。ぜひ様々な本を手にとってみてくださいね。



『おなじ世界のどこかで』

藤野恵美 著 KADOKAWA

インターネットは、雲をつかむようなもの。

この本は、インターネットと人とのつながりをテーマに、いろいろな人たちのいつもの日常と、インターネットとのかかわりが描かれた短編集です。そして、短編ごとに、異なる「温度」を感じることができます。

いつも友達の輪に入らず、1人であることが多かった楓は、ある同級生の子とSNSでつながったことをきっかけに仲良くなります。ここでは、だれかと一緒にいることを知った温かさが、読者にも伝わります。

また、ゲーム会社で働く男性会社員の純平は、インターネットサイトをきっかけに、今ではすっかり忘れていた昔の気持ちを思い出します。「冒険に出るような気持ち」を得た純平は、最後にある決断をします。それは、私たちにも熱い温度を感じさせてくれます。

しかし、楽しい情報だけでなく、知りたくない情報が流れてしまうことも、インターネットならではの。

中学生の結衣は、SNSで流れてきた戦争の動画を偶然見てしまい、とてもショックを受けます。平和が当たり前の現代の日本にとって、結衣の感じた驚きは、私たちにも冷たい温度を与えます。

たくさんの人たちを描いた8編の短編は、まるでインターネットのように、実はつながっています。私たちにとって当たり前の、インターネットについて考えることができること・異なる温度を感じる話たちの、つながりを感じることが、この本の魅力です。

雲は、つかめそうでつかめない。でも「雲の向こうはいつも青空」です。雲をつかむような気持ちで、ぜひ手に取ってみてください。

『再生 角川ホラー文庫ベストセクション』

綾辻行人・井上雅彦・今邑彩・岩井志麻子・

小池真理子・澤村伊智・鈴木光司・福澤徹三 著

朝宮運河 編集 KADOKAWA

ホラーと言えば「背筋が凍る」ものですが、必ずしも全てがそうである訳ではありません。ホラーは決して背筋を凍らせるような幽霊や怪奇現象の独壇場どくだんじょうではなく、時には人の息遣いを感じるような生暖かい恐怖を感じることもできる作品も登場します。そこで今回紹介するのが、この『再生 角川ホラー文庫ベストセクション』です。この本には幽霊や怪奇現象はもちろんのこと、そういったものが一切登場させずとも先ほど言ったような生暖かい嫌な雰囲気を感じる作品まで多種多様な8作が収録されています。

中でも特に私が面白いと思ったのはこの本の最後に収録されている「学校は死の匂い」という作品です。とある少女が学校の体育館でキャットウォークから飛び降りる女の子の霊を目撃したことをきっかけにその幽霊の飛び降りの理由を明らかにしようとする、という内容のこの作品は、各所で巧みに置かれた要素を回収していくにつれて飛び降りる幽霊の裏に隠れた意外な真相が明らかになっていくようにできています。そのため、ホラー小説でありながら推理小説的な楽しみ方もできる作品となっており、個人的には特にオススメな一作となっています。

今回紹介した「学校は死の匂い」以外にも、この本には短いながらも綺麗にまとまった様々な作品が収録されています。綾辻行人先生を筆頭とした作家陣はいずれもホラー小説における有名作家であり、ホラー小説をこれから読んでみたいという人にとっても良い指標になるのではないのでしょうか。冷たい恐怖だけではなく、多種多様な恐怖を収録したこの一冊、是非手に取ってみてください。

『小さな家のローラ』

ローラ・インガルス・ワイルダー 作

安野光雅 絵・監訳 朝日出版社

この本は、大きな森の小さな家に、お父さんとお母さんと、お姉さんのメアリーと赤ちゃんのキャリーと住んでいる、小さなローラのお話です。

表紙の絵も、紙質も、挿し絵も、もちろん物語も。この本はほかほか。

ローラは、この、大きな森の小さな家で（時には外の世界に出て）、いろいろな、今の私たちが経験するのは難しいようなことを、たくさん経験します。そして、それが日常なのです。私たちが、学校に行ったり、宿題をしたり、音楽を聴いたり、友達と喋ったり、ごはんを食べたりするように、ローラは、シカ肉の燻製くんせいを作るのを手伝ったり、冬のために食材がため込まれた屋根裏部屋でメアリーと遊んだり、いとことクリスマスに森で「写真ごっこ」をしたり、夜、寝る前にお父さんに幼い頃の話や、おじいさんの子供の頃の話や、今日外でどんなことをしてきたかを教えてもらったり、お母さんがバターを作るのを手伝ったりしているのです。

でも、私たちに嫌なことがあるように、ローラにも嫌なことがあります。みんなに褒められるメアリーの金髪がうらやましくなって、自分の茶髪が嫌になったり、大人しくしていないといけない日曜日の「安息日」が我慢できなくなったり。

この本には、オチや起承転結などがありません。日記のような、ただ日常を綴った本です。昼間などにずっと読み続けるには、正直少し退屈です。ですが、おすすめの読み方が一つあります。夜、寝る直前に、温かいベッドの中で、一晩一話、時間をかけて読むのです。すると、一話読み終わるころには、心も身体もしっかり温まって、続きは特に気にならないので、するりと眠れます。

私たちの普段の生活とは全く違う日常。寝る前の温かい時間に、その温かい日々を少し覗いてみてはどうですか？

共同編集者のつぶやき

～編集後記に代えて～

春の卒業や入学、クラス替え。新しい変化をひかえて、ドキドキしている読者の方も多いのでは？来年度も、CATCH 編集部は皆さんを応援しています。勇気をだして、スタートしてみてください！

- ①ペンネーム
- ②好きな温度
- ③春から始めたいこと
- ④読者のみなさんへ一言☆

- ①あさぎ
- ②暑いのが嫌いなのでずっと秋くらいの気温がいいです
- ③たくさん外に出ること！散歩の習慣がついたら楽しいだろうなと思います
- ④普通の生活が送れていないご時世ですが負けずに頑張っていきましょう！

- ①ひまわり
- ②25℃
- ③美顔！！
- ④自分を信じて突き進め(^_-)-☆

- ①たまき
- ②ぬるい温度が好き。猫舌なので
- ③旅行にたくさん行けるようになりたいです。
- ④「新しい」は期待と不安を両方ともつものです。でも、必ずなにかを変えるものです。変化を恐れず、お互いがんばりましょう！

- ①アオイ
- ②低温。暑いのと違って暖房や重ね着で何とかなるので。
- ③サークル内でする発表の計画。
- ④新年度、新生活を始めるにあたって新しいジャンルに足を踏み込んでみてはいかがでしょうか。何か新しい出会いがあるかもしれません。
ちなみに自分は最近クトゥルフ神話に手を出しました。

- ①なぎ
- ②冬の朝みたいな、透明感のある寒さが好き。でも暖かいのも大好き。
- ③筋トレとダンス！2022年は腹筋を割りたい…笑
- ④これからよろしくお願いします！

